

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	若林 茂則		
NAME	Shigenori Wakabayashi		

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記のとおりご報告いたします。

1. 研究課題

第二言語習得研究の理論的枠組み

2. 研究期間

2021・2022年度

3. 費目別収支決算表

掲載省略

4. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）本研究では、これまでの第二言語習得研究における研究成果を、様々なアプローチの中でとらえ直し、有機的に結びつけるとともに、わかりやすく整理することから始めた。これまで多くの第二言語習得モデルが提案されているものの、実際に目標言語および交差言語的影響に関する記述・および説明の妥当性という観点から、考察・検討を重ねた結果、生成文法に基づく研究に最も説明力があるという結論に至った。生成文法のうち極小理論（Chomsky, 2015）に基づいて、wh移動の制約の習得に関して、母語および熟達度の異なる学習者から集めたデータに基づく研究をもとに考察を深め、人間の生得的知識である普遍文法の制約が、言語習得の学習可能性の問題を解く鍵となることをモデル化し、「言語習得ガイドとして普遍文法の役割(UGG)」を提案した。この理論的実証的研究と並行して、教育工学的観点から、言語習得の環境を整え、言語の自然な使用が可能となる現場を学習者に与えるため、海外の教室と日本の教室をつないで授業を実施する、ICTを用いた国際協働授業をデザインし、その実施のための準備を行なった。

（英文）Based on the Minimalist Program (Chomsky, 1995) I examined studies of the acquisition of constraints concerning *wh*-movement, I proposed the "Universal Grammar as a Guide " with a co-researcher. In parallel with this, I designed and prepared for the implementation of international collaborative classes using ICT, which connects classrooms overseas and in Japan, to provide learners with opportunities where they use the target language authentically.